2 遺物

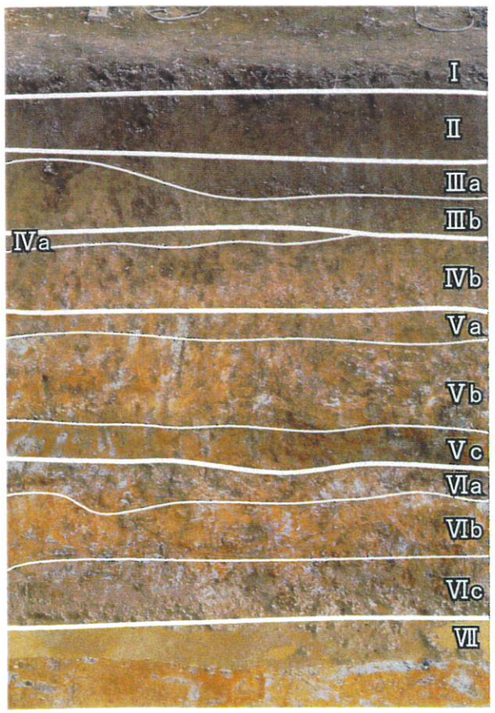
本遺跡で見つかった遺物のほとんどは古墳時代前期の土師器になります。古墳時代の土師器は轆轤ではなく手づくねで作るので、表面に筋状のハケメ・ナデ・ミガキと呼ばれる形を整えた時の痕跡が模様のように残っています。整理作業を進めてからになりますが、接合すると壺や甕・鉢のほか、高坏などになると考えられます。

古墳時代の土師器は埋まっていた土壌によるものか焼き方によるのか、脆くて表面がはがれやすくとろけやすいという特徴を持っています。炉跡などに残されていた土器は、熱を受けたためか良好な状態で残ることもあります。

古墳時代の土師器

平安時代の土師器と須恵器

また、平安時代の溝跡やピットなどの遺構から、平安時代の土師器や須恵器も少量見つかっています。これらの遺物は、8～9世紀代の須恵器と11～12世紀の土師器であることがわかりました。須恵器には墨書がみられ、土師器には羽釜もあることが分かりました。本遺跡では平安時代の遺構もわずかで、どのような空間が広がっていたかはわかっていません。しかし、隣接する古屋敷割遺跡や舘遺跡で、平安時代の集落が見つかっています。



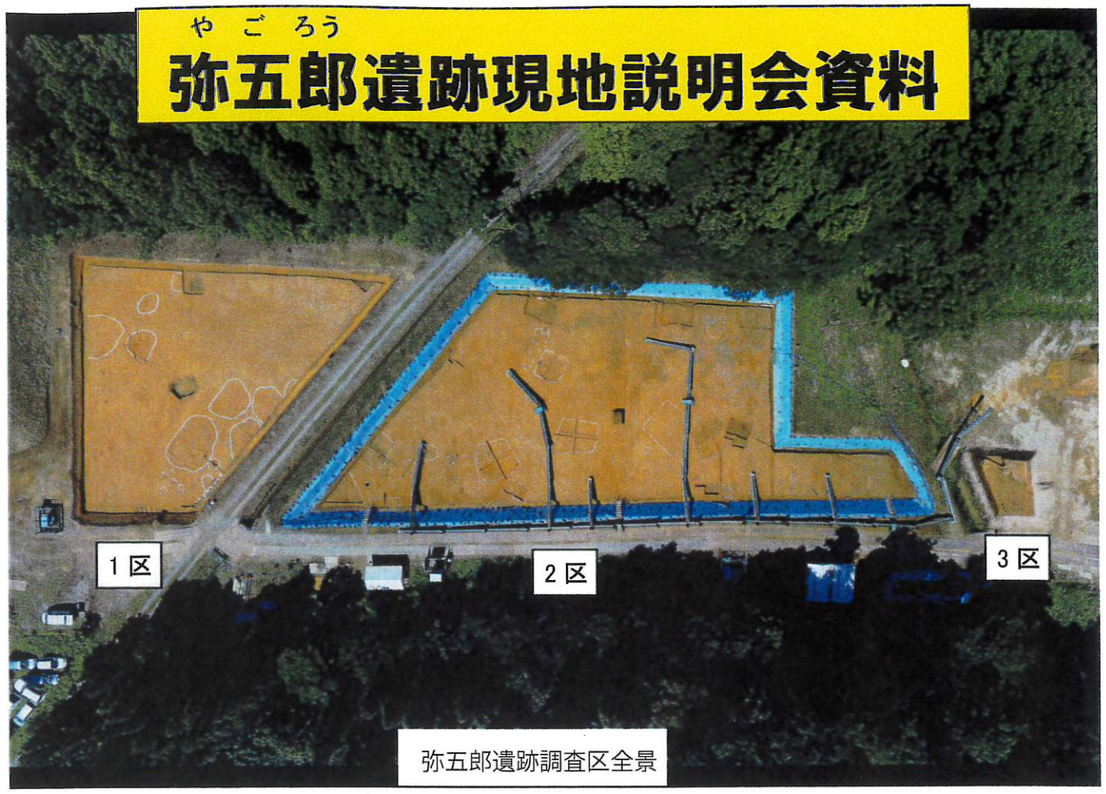
弥五郎遺跡の基本層序

3 基本層序

弥五郎遺跡の基本層は大きく7つの層に大別できます。その中の土の違いにより細分したものが左の写真になります。地表面から約1.0～1.2m下にあるⅤc層の面で遺構が見つかっています。

Ⅰ層：表土
Ⅱ層：近～現代耕作土
Ⅲa層：古代～中世
Ⅲb層：〃
Ⅳa層：古墳時代の包含層
Ⅳb層：〃
Ⅴa層：〃
Ⅴb層：〃
Ⅴc層：古墳時代の遺構検出面
Ⅵa層：地山
Ⅵb層：〃
Ⅵc層：〃
Ⅶ層：〃

弥五郎遺跡現地説明会資料

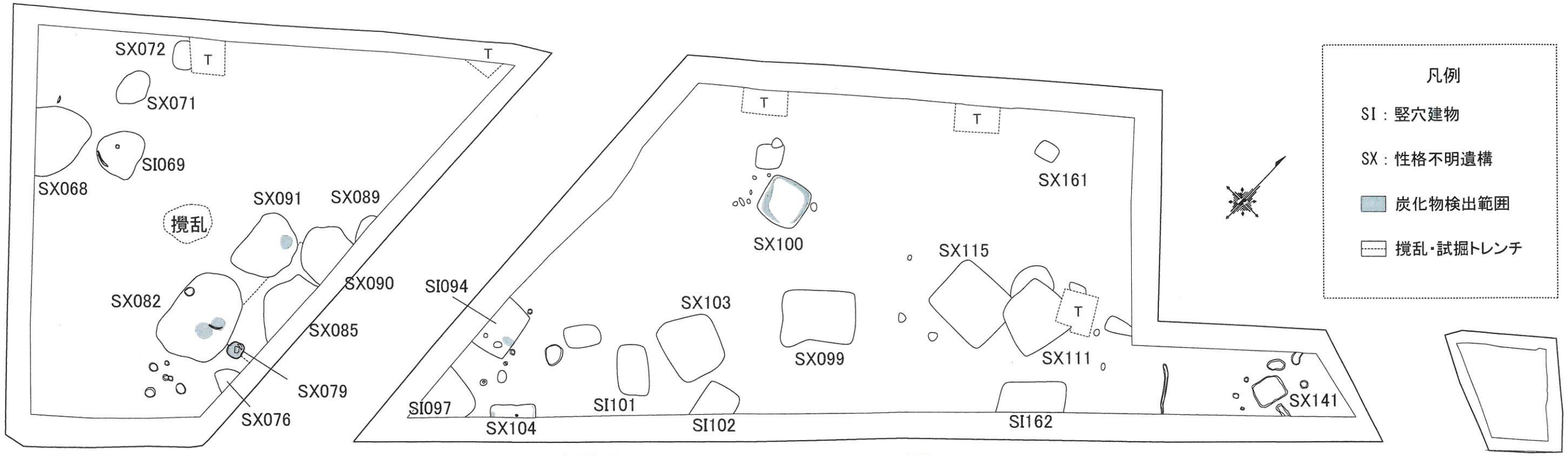


弥五郎遺跡調査区全景

調査の概要

事業名：国道253号上越三和道路
所在地：上越市三和区米子字谷地割
現地調査期間：平成31年4月～令和元年11月（予定）
主　　催：国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所
　　新潟県教育庁文化行政課　公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
　　株式会社イビソク
調査面積：約3,110㎡
遺跡の時代：古墳時代前期・平安時代
検出遺構：SI：竪穴建物6棟、SX：性格不明遺構19基、SD：溝2条、SK：土坑8基など
出土遺物：土師器・須恵器
遺跡の概要：弥五郎遺跡は上越市三和区に所在し、周囲を米山山地や東頸城丘陵、西頸城山地に囲まれています。遺跡は飯田川と桑曽根川に囲まれた沖積地の標高約15～16mに位置し、周辺は青野池などの湖沼が広がる地域となっております。

弥五郎という地名は、三和村史によると米子村に弥五郎屋敷・嘉衛門屋敷の地名があり、上杉氏の家臣千崎弥五郎が居住していたと伝えられています。屋敷の位置などが明らかではないですが、これが弥五郎の地名の由来である可能性が考えられます。



古墳時代遺構全体図

0m　20m

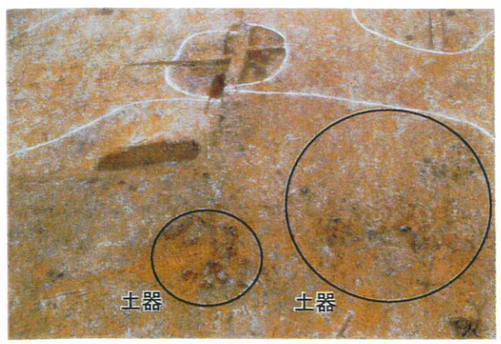
1　遺構

1区で見つかった遺構は竪穴建物や性格不明遺構などがあります。遺構の見つかった深さでは、たくさんの遺物や炭化物が散らばっていることから、建物や住居としての生活の痕跡があったことがわかります。

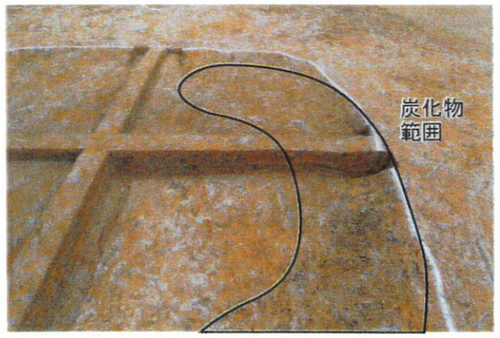
1区 SI069 炉跡

SI069 炉跡の土器

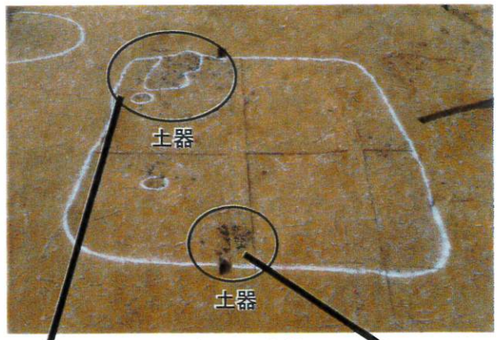
左の写真のSI069からは炉跡と思われる火を使った痕跡も見つかっています。中には土器が据えられていました。この土器は壺の口の部分のみが見つかり、胴部はありませんでしたが、この後の整理作業で近くの破片と接合できるかを検討する予定です。1区の遺構は残りの悪いものが多く、左のSX082のように薄い痕跡のみを確認したものがほとんどです。出土した遺物も脆く触ると崩れてしまいます。



1区 SX082 遺物出土状況

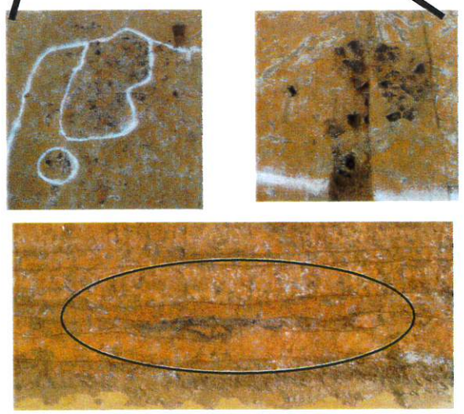


2区 SX100 炭化物範囲



2区 SI101 土器出土状況

2区では少なくとも5棟の竪穴建物が見つかっています。竪穴建物には炭化物や土器のほか、柱穴や焼土の残る炉も見つかっています。またSX100のように炭化物範囲が四角く方形にめぐるSXも見つかっています。2区はまだ調査中ですが、1区と合わせて6軒以上の竪穴建物が見つかったことになります。弥五郎遺跡は古墳時代前期の集落と考えられます。



2区 SI102 炉跡確認状況